

## 杏林医学会 第27回例会 開催報告 「見えない壁だって、越えられる」

眼科学教室

平 形 明 人

視覚障害リハビリテーション理事、NPO法人モンキーマジック代表小林幸一郎さんから講演をいただく。小林さんは、現在、視覚障害者に「フリークライミング」や「ボルダリング」を紹介している。ご自身は、16歳にフリークライミングに出会う。そして大学を卒業して通常の企業に11年間勤務するが、物が見づらくなり網膜色素変性症を28歳で診断される。治療法がなく視覚障害が進行し失明に向かっていくことを考えながら、自らが積極的に社会に貢献できる仕事を模索し会社勤務をやめた。視覚障害者の活動を探っていくうちにフリークライミングに出会い、視覚障害でありながらアフリカ大陸最高峰のキリマンジャロに登頂成功した。失明してから「パラクライミング選手権」視覚障害者部門で優勝、その後も「ワールドチャンピオンシップ」視覚障害者Bで何度も優勝し、視覚障害クライマーが見つけた明日への希望を伝道しながら視覚障害で悩む人に貢献できるような社会活動をレクリエーションセラピストの木本多美子さんたちの仲間とともにNPO法人を立ち

上げて行っている。

今回の例会では、自らの経験を杏林アイセンターのメンバーに加えて研修医、医学生、視覚障害者など約50名の参加者に語りかけるように講演された。

人は「障害があるから」「年だから」「どうせ自分にはできないだろう」と自分で知らず知らず「見えない壁」を作ってしまうがちである。障害者クライミングの普及は、そんな自分で作る「見えない壁」に気づき、まずは「越えられるかもしれない」と信じ、方法を考え、仲間を見つけ、挑戦する力を得る機会になると考えて、小林さんは10年の活動の継続してきた。

小林さんはこのような話を全盲でありながらスライドを用いて聴講者に語り掛け、参加者に大きな感動を与えてくれた。「自己効力感」「ゴールは一人ひとり違うもの」「達成感」などをキーワードにわかり易く語りかけ、参加した医師や医学生は、医療人としての仕事のやりがいに勇気を与えられた。

